

平成17年度収蔵作品(購入17点／受贈8点)

No	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	技法、素材
	<b>【購入】</b>				
1	加納光於	燐と花と	1959年	41.2×27.1	インタリオ・紙 E.A.
2	加納光於	花・沈黙	1960年	36.2×42.4	インタリオ・紙 Ed.4／5
3	加納光於	星・反芻学	1962年	67.4×33	インタリオ・紙 E.A.
4	加納光於、大岡信	アララットの船あるいは空の蜜(No.5)	1971～72年	68×44.2×22.8	木、金属、ガラス、その他(35点制作、その他非買品として5点制作)
5	狗巻賢二	作品	1974年	75.5×106.4	墨・方眼紙
6	狗巻賢二	作品(10)	1978年	57×76	水彩・紙
7	狗巻賢二	作品92-2	1992年	54×39	油彩・カンヴァス
8	狗巻賢二	作品92-11	1992年	54×39	油彩・カンヴァス
9	狗巻賢二	作品92-14	1992年	54×39	油彩・カンヴァス
10	狗巻賢二	作品92-22	1992年	53×38	油彩・カンヴァス
11	北代省三	ラディオ・ギャラククス	1955年(1990年再構成、1999年補彩)	310×360×360	ジュラルミン、真鍮、鉄、木
12	東島毅	FMF-047	2000年	240×333	ミクストメディア・カンヴァス
13	東島毅	FF-T	2000年	333.3×248.5	ミクストメディア・カンヴァス
14	建畠覚造	ORGAN NO.8(デッサン)	1965年	25.7×36.2	鉛筆・紙
15	建畠覚造	LANDSCAPE(デッサン1)	1982年	25.7×36.2	鉛筆・紙
16	建畠覚造	LANDSCAPE(デッサン2)	1982年	25.7×36.2	鉛筆・紙
17	北郷悟	眠りの街	2002年	100×100×100	テラコッタ
	<b>【受贈】</b>				
No	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法
1	北代省三	ヒステリシス・フェノメノン	1948年(1989年再制作)	116.7×116.7	油彩・カンヴァス
2	北代省三	ホワイトノイズ	1951年(1989年再制作)	72.7×116.7	油彩・カンヴァス
3	北代省三	窓の中の二つの扉	1953年(1989年再制作)	91×91	油彩・カンヴァス
4	北代省三	発掘Ⅱ	1987～94年	185×94×11	木
5	北代省三	デジャ・ビュⅡ	1987～94年	42×90×10	木
6	北代省三	『バルキスとソロモン』ジェラルド・ド・ネルヴァル／『暁の女王と精霊の王の物語』より	1987～94年	12.7×20×34	木

7	北代省三	ケージのプリペアド・ピアノのための一くさびによる即興	1987～94年	24.8×34.9×3	木、真鍮
8	ホルスト・アンテス	五つの家	2002～04年	74×90	リトグラフ・紙 E.A.(Ed. は36)

◇加納光於(かのう みつお)は、独自の世界を通して戦後美術に大きな足跡を残し、当館の収蔵方針にもその名が明記され収蔵が望まれていた作家である。今回は、初期の代表作とも言うべき銅版画「燐と花と」、「花・沈黙」、「星・反芻学」と大岡信との共作で知られる「アララットの船あるいは空の蜜(NO.5)」を収蔵した。

◇狗巻賢二(いぬまき けんじ)は、開館当初から収蔵方針に名前が明記され、作品の収蔵が望まれていた作家である。今回は初期の平面作品である方眼紙に墨壺による「作品」、水彩を用いた「作品(10)」、そして近年の代表作ともいうべき白い作品シリーズ「作品92-2」、「作品92-11」、「作品92-14」、「作品92-22」あわせて6点を収蔵している。狗巻は、今後さらに再評価されるべき作家として注目されている。

◇北代省三(きただい しょうぞう)は、戦後美術における重要な芸術集団であった実験工房の主要な作家として、当初より収蔵方針に明記されていた作家である。「ラディオ・ギャラククス」は、1990年に再制作されているが、北代の代表的なモビール(動く彫刻作品)として貴重な作品である。また北代はモビール(動く彫刻作品)以外にも多彩な作品を制作しており、今回受贈した「ヒステリシス・フェノメノン」、「ホワイトノイズ」、「窓の中の二つの扉」、「発掘Ⅱ」「デジャ・ビュⅡ」、『バルキスとソロモン』ジェラルド・ド・ネルヴァル／『暁の女王と精霊の王の物語』、「ケージのためのプリペアド・ピアノのための一くさびによる即興」の7点をコレクションに加えることにより、北代の多様な作家性を紹介することが可能となる。

◇東島毅(ひがしじま つよし)は、2000年に国立国際美術館において個展を開催するなど90年代後半から注目を集めている若手作家の一人であり、90年代に登場する新世代の作家として近年の活躍が認められ、近作である「FMF-047」と「FF-T」を収蔵した。

◇建畠覚造(たてはた かくぞう)については、既に代表的な彫刻作品が当美術館に収蔵されているが、それらの彫刻作品に関わる3点のデッサン「ORGAN No.8(デッサン)」、「LANDSCAPE(デッサン1)」、「LANDSCAPE(デッサン2)」の資料的価値が高く評価されデッサン3点を収蔵している。

◇北郷悟(きたごう さとる)はいわき市出身の重要な作家として認知されており、既に当美術館に収蔵されている初期作品を踏まえ、その後の展開を示す「眠りの街」を収蔵した。

◇ホルスト・アンテスは、世界的に著名な現代作家の一人であり、当館は代表作を含む3点の作品を収蔵していることで知られている。その関係から当館では2004年から2005年にかけて国内を巡回した個展を開催しているが、アンテスは、個展を巡回した各美術館に作品を寄贈する意向を示しており、アンテスの意向を受けて、「五つの家」を受贈している。